

2011  
震災復活号

現在はスマホでもパソコンでも  
会える時代



東日本大震災から10年という歳月が流れた現在でも、近隣地域の皆様におかれましては、現在も懸命な街の再生・復興作業、また新しい生活様式をされていることと存じ上げます。

当時は弊社のスタッフも「今、私たちができること」から、被災者の方がすぐにお住まいできるアパート・マンションのご提供を行い、アーケード商店街の賑わいを取り戻すテナント誘致等、活動しておりました。

防災・復旧・新しい活動・人と人の繋がり方など“10年間の様々な経験”を未来への学びに。今は直接会うことが難しい時期ですが、現在の新しい方法で、これからも皆様と繋がってみたいと願っております。

10年  
2021  
春号

## これからの時代の不動産オーナーとは

マネージャー 土屋将範

コロナ禍は不動産オーナーにも大きな爪痕を残し、現在もまた残し続けています。

入居テナントの賃料減額、空室に対するリーシング、市場の動向の把握（相場感）など、考察と決断をいかに早く行えるかが問われてきます。

オーナー様ご自身で常に物件と向き合っている場合は良いのですが、よくわからないけど管理手数料は払いたくないし、分からないときだけ不動産会社に聞けば、自主管理でもいいか…というオーナー様は注意が必要です。

不動産先進国のアメリカでは、いかに良い管理会社を付けれるかが物件の価値を大きく左右します。

それは、常にフレッシュな相場観を持ち、物件を守っていくプロが不動産には重要になるということです。

片手間でやれるほど不動産は簡単ではありませんし、分からないときだけ聞くことは常に後手を踏むということになります。

不動産オーナーの心構えとして、「プロ意識を持つ（自主管理の場合）、あるいは信頼のおけるプロに任せる（管理委託）」ことが、この厳しい時代に最も必要なことの一つと言えます。



## ◆土屋社長のひとりごと◆

『明るい未来を  
信じてみましょう！』



今年は、東日本大震災から10年。また、『コロナウィルス』という感染症に対して、全世界の人々が戦っております。

東日本大震災の時は「自分は51歳だし、まだまだ仕事を頑張ろう！」という時期でした。

“変化に対応する者が生き残る”という信念で何とか乗り切ったような気がします。

今回の『コロナウィルス』についても、必ず人類は“変化に対応する者が生き残る”理論で克服できると確信しております。

この戦いで必要なことは、仕事の業務上では『戦略』『戦術』『決断力』『行動力』で、精神的には『仲間（社内外を問わず）』だと思えます。

これからも出来るだけオーナー様のサポートをいたしますので、ご支援ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

